

平成 10 (1998) 年度第 1 回常任幹事会 議事録

日本光学会 (応用物理学会)

日 時: 平成 10 (1998) 年 7 月 10 日 (金) 14:00~
17:00

場 所: 機械振興会館地下 3 階 9 号室

議 事:

1. 報告事項

1-1. 「光学」編集委員会報告

- ・現代光学に関する「講義」を 2 年間位行った後、単行本にする計画が報告された。
- ・第 28 巻第 2, 3 号は企画が決定し, 4, 5 号は第 2 次構想案の段階, 6, 7 号は第 1 次構想案の段階, 8, 9 号は号担当が決定した段階である。
- ・編集資料の電子化について検討中である。
- ・精機通信社への目次の送付に関しては, 企画が決まり原稿が揃った段階で行う方向で検討中である。
- ・原稿料の扱いに関しては, 査読料 (現在 1,000 円) の扱いも含めて引き継ぎ検討中である。査読料をやめる場合, 謝意をどうするかに関しても検討している。ちなみに, 「OR」は支払っていない。

1-2. 「OPTICAL REVIEW」報告

- ・Vol. 5, No. 3 まで発刊済みである。
- ・投稿数は, 4 月 7 件, 5 月 10 件, 6 月 8 件と順調であったが, 例年夏場の投稿数は減少するため, さらなる投稿勧誘努力を行っている。
- ・会員投稿率が約 80% を占めており, 会員外の投稿数増を目指している。
- ・投稿はあっても未購読の機関があるが, まずは個人宛で勧誘を行い, その人から機関に働きかけてもらうことにする。
- ・ホームページの海外アクセス数は約 40% あるが, 海外からの投稿数は増えていない。今後は Springer 社への国外販売委託による増加が期待される。

1-3. 第 23 回光学シンポジウム結果報告

- ・第 23 回光学シンポジウムが 6 月 25 日, 26 日, 東京大学生産技術研究所において開催された。参加者数は最高の 322 名であった。
- ・懇親会にも 100 名近くの参加が得られ, 盛況であった。
- ・参加者が多かったため, 約 100 万円の黒字となった。
- ・光ディスクのスペシャルセッション企画により, 従来の光学シンポジウムでは得られなかった層を集めることが

できたこと, 講演応募を積極的に呼びかけたため会員ニーズに合った情報提供が実現できたこと, 実行委員のレベルが高く, 円滑な運営ができたこと等, が成功につながったと分析している。

- ・スペシャルセッションの光ディスク関連は ISOM 等と内容が重なる講演となり, 多数の参加が得られた半面, 本来の光学シンポジウムの主旨と異なっていたかもしれない。今後, スペシャルセッションをどのように発展させていくかについてさらに検討が必要である。

1-4. 第 23 回光学シンポジウム決算報告

- ・昨年度参加者 230 名に対し今年度は参加者が 322 名となり, また予稿集に広告を掲載したこともあり, 黒字となった。
- ・ただし, 会場として東京大学生産技術研究所の移転のために来年以降は有料の外部会場を借りることになるので, 資金準備が必要である。今回から広告掲載を行ったのもそのためである。
- ・テキストのみの希望も多く, 50 部追加した。
- ・学生会員の参加が少ないが, テーマが企業寄りのためであり, 光学シンポジウムの特徴といえる。

1-5. OPTICS JAPAN '98 準備状況報告

- ・論文投稿を 6 月 30 日に締め切り, 合計 182 件 (昨年 150 件) となった。
- ・今後の予定としては, 7 月 28 日に論文原稿締め切り, 「光学」第 27 巻第 8 号にプログラムを掲載, また日本語, 英語のプログラムをホームページで公開する予定である。
- ・奨励賞の最終的な決定は 7 月 15 日であるが, プログラムの都合で奨励賞講演時間は 1 件分の時間枠しかないため, 2 件となる場合は 1 件 10 分程度の紹介講演となる。

1-6. OPTICS JAPAN '98 予算案

- ・予算案が示された。昨年実績の参加 350 名, 予稿集 275 冊で予算を立案した。
- ・招待講演者は参加費, 懇親会費が無料のため, その分を吸収できる予算にしている。
- ・以上の報告の後, 予算案が承認された。

1-7. サマーセミナー準備状況および予算案

- ・8 月 20 日~22 日の 2 泊 3 日, 下諏訪の山王閣で開催される。
- ・講師 7 名が最終決定となった。
- ・テキストは, 別刷を綴じる形式で準備中である。
- ・参加 70 名を見込んで予算を立案しており, 承認された。

1-8. ICOSN '99

- ・現在ポスターを作成中であり、今後の広報活動に役立てる予定である。
- ・各委員の委嘱は日本光学会幹事を中心に考えている。
- ・アブストラクト締め切りは9月30日である。

1-9. ODF '98 結果報告

- ・6月15日、16日に東京ガーデンパレスで開催され、参加数は130名となり成功したと考えられる。

1-10. 第25回冬期講習会準備状況

- ・'99年1月21日、22日に東京大学生産技術研究所において開催する予定であり、今後の準備スケジュール案が示された。
- ・テーマは、「光通信と光情報分野で活躍する光デバイス」にて企画を進めている。
- ・このテーマ案に対して、「光通信と光情報を併せるのはテーマとして無理が感じられる」「基礎からトピックスまで包含するテーマにするのが良いのではないか」という意見が出された。
- ・以上の議論の結果、テーマに関しては再検討することになり、7月末までにテーマ案を立案し、8月初めまでにテーマを決定することになった。

1-11. 「OR」機関購読廃止に伴う処置

- ・「OR」誌の機関購読廃止に伴い、背景説明、現状調査結果、変更内容の説明が行われた。
- ・変更内容は、
 - (1) 特別会員 A 「光学」のみ配布、会費 15,000 円
特別会員 B 「OR」のみ配布、会費 30,000 円
特別会員 C 「光学」「OR」を配布、会費 40,000 円
 - (2) 応用物理学会の希望する賛助会員への「OR」配布、特別付加会費 30,000 円である。この変更に伴う光学会規約、応用物理学会規約の改正は、7月6日の応物理事会において承認された。
- ・今後の作業としては、
 - (1) 案内状作成、送付(8月末までは返事を待ち、9月に返事の催促を行い、返事が得られない場合は「OR」の発送を停止する予定である。)
 - (2) 返事の集計を10月に行う。
 - (3) 平成11年1月より実施する予定である。
- ・規約改正は総会に諮る必要はないのかという質問がされたが、日本光学会規則第8項「幹事会は必要と認めるときは学会理事会の承認を得て本規則を改訂することができる。」が紹介され、今回の改訂は本項に沿って行われた旨の説明があった。

1-12. ホームページ WG 活動報告

- ・ホームページ掲載の流れについて、配布資料に沿って紹介された。
- ・WGメンバー4名が、「英文」+「分科会」、「光学」、「OR」、「講演会」に分かれて担当している。
- ・今後、ホームページ掲載内容に関しては、幹事長の承認が必要であることが確認された。
- ・ホームページアクセス状況が報告された。

1-13. 光学会過去資料の保管、共催・協賛

- ・光学会の過去の資料(幹事会名簿(S30~)、幹事会議事録(S41.11~)、契約書)を応物で保管してもらうことになった。
- ・協賛の3件が報告された。

1-14. 国際協力(SPIE-OSA-OSJ)に関する報告

- ・名簿の郵便番号7桁化に関しては、すべてはできないので、とりあえず主要メンバーに関して行った。
- ・会員2,000名中半数の1,000名が名簿に載った。
- ・SPIEより、名簿の製本数、CD-ROM数の問い合わせが来ている。
- ・有料か、無料か、また送料をどこが負担するか不明であること、さらにOSJのみに加入している会員の人数を調査する必要もあるため、調査後、今後の対応を決めることになった。

1-15. 次期幹事選出に関して

- ・次期幹事選出方針が以下の通り示された。
 - (1) 企業へ推薦依頼状を提出する。
 - (2) 次回9月4日の幹事会に候補者を持ち寄り、その後内諾を受ける。
 - (3) その後、「光学」に掲載し選挙を行う。
 - (4) 来年1月の幹事会で結果を報告、役割決定を行う。
- ・長期ビジョンを立てるための1つの提案として、幹事長、編集委員長の任期を現行の2年から4年にしたらどうかとの意見が出された。
- ・この意見に対して、任期を延ばすことだけが答えではなく、世代交代も必要であるとの意見が出された。
- ・問題提起として、今後議論することになった。

1-16. 「OR」印刷所変更に関する報告

- ・来年1月より、印刷所を従来の大昭和印刷から小宮山印刷に変更することが報告された。
- ・この件に関しては、学会事務センターも了承済みである。

1-17. その他

- ・カラーフォーラム担当幹事を2名にしたほうが良いという意見が出され、今後検討することになった。
- ・常任幹事会と幹事会の区別が明確ではないという意見が

出され、この件に関しても今後議論することになった。
—以上—

平成 10 年度日本光学会奨励賞および授賞式

本年度の日本光学会奨励賞は石井勝弘氏（北海道大学電子科学研究所）ならびに安井武史氏（工業技術院計量研究所光学計測研究室）が受賞されました。

受賞対象論文は以下のとおりです。

石井勝弘氏：“Polarization Properties of the Enhanced Backscattering of Light from the Fractal Aggregate of Particles,” Opt. Rev., 4 (1997) 643-647.

安井武史氏：“Accurate Stabilization of a 3 mW Single-Mode Output He-Ne Laser by Intermittent Frequency Offset Locking to an Iodine Stabilized He-Ne Laser,” Opt. Rev., 4 (1997) 675-682.

なお、授賞式は下記のとおり Optics Japan '98 にて行われました。

日 時： 1998 年 9 月 18 日（金） 16：10～16：50
場 所： 岡山理科大学 E 会場（11 号館 11071 教室）

平成 10 年度日本光学会関西講演会

日 時： 1998 年 11 月 19 日（木） 14：00～16：30
会 場： 大阪大学附属図書館吹田分館内 視聴覚ホール（吹田市山田丘 2-1, 阪急千里線北千里駅より徒歩 15 分）詳細につきましては以下をご覧ください。

<http://www.osaka-u.ac.jp/annai/campus/access2.html>, または <http://www.library.osaka-u.ac.jp/suita/>

講 師： 電気通信大学 武田光夫

講演題目： 光計測における時空間の類似性と双対性

参加費： 無料

申込方法： 当日会場受付

本講演会は、応用光学懇談会との共催です。

問合せ先： 兵庫県立工業技術センター 北川洋一

〒654-0037 神戸市須磨区行平町 3-1-12

電話 078-731-4481 Fax 078-735-7845

E-mail: kitagawa@hyogo-kg.go.jp

理研シンポジウム

計測自動制御学会第 4 回センシングフォトンクス部会 講演会「新しい光応用技術 XIII」

主 催： 理化学研究所 光工学研究室, (社)計測自動制御学会 センシングフォトンクス部会

協 賛（予定、依頼中）：

(社)応用物理学会 日本光学会, (社)レーザー学会,

(社)日本オプトメカトロニクス協会, (財)光産業技術振興協会

本シンポジウムは、光科学と光応用技術の最新の成果と今後の動向に関する発表と討論を目的として、1985 年から毎年開催している。今回は主要なテーマとして、生誕 50 周年を迎えたホログラフィーを中心とした 3 次元表示技術の進展、および新しい有機光材料・素子に関する話題をとりあげる。前者では、ランダムドットステレオグラムや計算機ホログラムの 3 次元表示への応用を、後者では有機材料による EL 素子に焦点をあてた。また、位相シフト干渉法のホログラフィーや広帯域波長干渉法への応用、光による液晶材料・金属微粒子の制御、微小金属球と近接場光の相互作用などに関する研究報告も行う。これらのトピックスに対して活発な討論を期待している。

日 時： 平成 10 年 11 月 19 日（木） 10：00～17：00

会 場： 理化学研究所レーザー研究棟 大河内記念ホール（東武東上線、営団地下鉄有楽町線「和光市」駅下車、徒歩約 15 分）

プログラム：

10：00～12：50

・イントロダクトリートーク

山口一郎（理研）

・位相シフト・デジタルホログラフィーとその応用

張 丹彦（埼玉大・理研）

・広帯域スペクトル干渉法における位相解析

加藤純一（理研）

・計算機合成ホログラムの 3 次元表示への応用

吉川 浩（日本大）

・Stereoscope, random-dot stereogram, and holography

蒲生秀也（UC Irvine）

14：05～17：00

・有機 EL ディスプレイ材料と多色発光デバイス

大森 裕（大阪大）

・液晶性有機半導体とその EL 素子への応用

半那純一（東工大）

・光による液晶の制御

城田幸一郎（理研）

・光放射圧による金微粒子の 2 次元トラッピング

古川祐光, 天神林孝二（機械技研）, 山口一郎（理研）

・基板上的微小金属球による場の増強

岡本隆之（理研）

参加費： 無料

参加申込： 不要（直接会場へお越しください）
 注： 終了後，懇親会を行います。
 問合せ先： 〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1
 理化学研究所 光工学研究室 加藤純一
 電話 048-462-1111 内線 3245
 E-mail: kato@optsun.riken.go.jp
 WWW: <http://optsun.riken.go.jp/>（プログラム掲載
 予定）

参加費： 無料
 申込先：（財）日本産業技術振興協会
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-19-5 虎ノ門1丁目
 森ビル 5F
 電話 03-3591-6272 Fax 03-3592-1368
 申込方法： 参加申込書に会社名・所在地・所属・氏名等
 をご記入のうえ，上記申込先へお送りください，fax で
 の申込みもお受けいたします。

生命工学工業技術研究所研究講演会

シグナル伝達と脳神経系の機能
 日 時： 平成 10 年 10 月 29 日（木） 10：00～17：20
 場 所： 三会堂ビル 9F 石垣記念ホール（〒107-0052 東
 京都港区赤坂 1-9-13）
 主 催： 工業技術院生命工学工業技術研究所，（財）日本
 産業技術振興協会

問合せ先：
 工業技術院生命工学工業技術研究所 総務部業務課
 〒305-8566 茨城県つくば市東 1-1
 電話 0298-54-6037 fax 0298-54-6038
 特別講演： 16：15～17：15
 脳可塑性の分子機構
 三品昌美（東京大学）

日本光学会 news の掲載申込み先：
 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33 千葉大学工学部情報画像工学科 羽石秀昭
 電話 043-290-3263 Fax 043-290-3262 E-mail: haneishi@ics.tj.chiba-u.ac.jp
 なお，掲載申込みは原則として発行日（10 日）から 2 か月前の 15 日まで，開催日が 1～10 日の場合
 は，開催日の 3 か月前の 15 日までをお願いします。

日本光学会平成 10 年度幹事（*常任幹事）

幹事長：	山口 一郎*（理研）	
副幹事長：	武田 光夫*（電通大）	
庶務幹事：	小方 康司*（オリンパス）	吉川 浩*（日本大）
	栗田 裕之*（日本 KLA）	羽石 秀昭*（千葉大）
	山崎 敬之*（コニカ）	
会計幹事：	山本 昌邦*（キヤノン）	栗木 一郎*（東京工業大）
『光学』編集幹事：	伊東 一良*（大阪大）	志村 努（東京大）
	伊藤 雅英（筑波大）	菊田 久雄（大阪府立大）
『OPTICAL REVIEW』編集幹事：	朝倉 利光*（北海学園大）	
国際協力幹事：	吉澤 徹*（東京農工大）	佐藤 平八*（防衛大）
	黒川 隆志（東京農工大）	小椋 行夫*（日本電気）
将来問題担当幹事：	久保田重雄*（ソニー）	河田 聡*（大阪大）
前幹事長：	横田 英嗣（東海大）	
企画・事業担当幹事：	西田 信夫（徳島大）	石川 和枝（上智大）
	玄間 隆志*（ニコン）	須原 浩之*（リコー）
	立野 公男*（日立）	松原 浩司*（電総研）
	浅井 和弘（東北工業大）	北島 巖（福井大）
	伊藤 博（トヨタ）	北川 洋一（兵庫工試）
	今井 洋（九州工業大）	